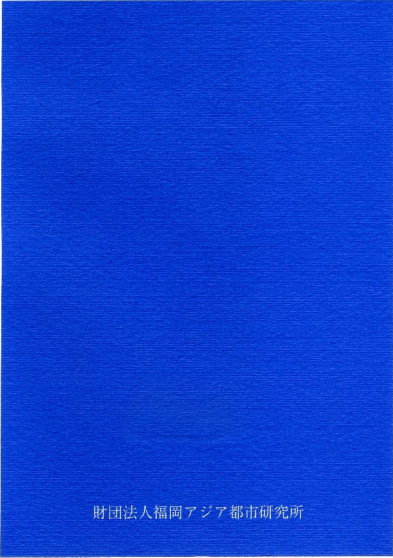


大名・今泉・春吉地区の経済環境調査
都心・天神に隣接したエリアのアメニティ



財団法人福岡アジア都市研究所

はじめに.....	1
福岡市都心年表.....	3

大名

特徴および現状.....	5
課題および行政への要望.....	6
INTERVIEW 1 藤井 昌.....	7
INTERVIEW 2 財部博之.....	8
INTERVIEW 3 坂田裕樹.....	9
INTERVIEW 4 谷口 修.....	10
INTERVIEW 5 小門 高.....	11
INTERVIEW 6 東野 正.....	12
数値でみる大名.....	13

今泉

特徴および現状.....	15
課題および行政への要望.....	16
INTERVIEW 1 張 光耀.....	17
INTERVIEW 2 森 哲範.....	18
INTERVIEW 3 川口広晴.....	19
数値でみる今泉.....	20

コラム がんばれ! 大名一地震からの復興.....	22
----------------------------------	----

春吉

特徴および現状.....	23
課題および行政への要望.....	24
INTERVIEW 1 友添健二.....	25
INTERVIEW 2 城戸善志.....	26
INTERVIEW 3 河原田 明.....	27
数値でみる春吉.....	28

コラム 街への思いを紡いで活気づく“晴好”.....	30
-----------------------------------	----

まとめ.....	31
----------	----



福岡の都心部は、1997年の福岡三越の開業を機に、南下の傾向が著しく、岩田屋、福岡天神・大丸エルガーラなど天神南西部に流通が集中していることもあり、人の流れは20年ほど前から大きく変化してきた。1976年の第1次流通戦争といわれた頃は、天神地下街、天神コア、岩田屋新館、ニチイ天神店(現在のビブレ)がオープンし、天神の中心部は天神コア、岩田屋(現在は空きビルになっている)回りであった。その後1989年、ソラリアプラザ、イムズが同時に開業すると、人の流れが少し南下する。そして1997年、北天神の衰退が拍車をかけたのか、天神と呼ばれるエリアは、完全に国体道路側にシフトした。その影響もあり、天神西通りを渡って、大名地区、さらには今泉地区へと人が流れ始めたのである。

「大名」という地域はその名が示すとおり黒田藩の大名屋敷があり、住宅地を中心に戦後は商業地として店が並んでいた。現在も商業ビルや古くからの民家、集合住宅が混在する街で、開発も行われていないエリアである。20年ほど前は、店舗もボツンボツンとあるくらいの場所だったが、天神から歩いて5分ほどの近さで家賃が安いということもあって、若者がサブカルチャー的な店舗を開店し始めた。古い木造モルタルの集合住宅を改造して店を造った。これが現在の大名の魅力ともなっている「大名スタイル」ともいえるショップ形式である。ショップの業態もさまざま、バー、古着屋、レコード屋、美容室、雑貨屋、クレープ屋、居酒屋などがぞくぞくと開業している。黒田藩の時代から店を営業している者もいれば、明治の頃から住み続けている住民もいる。古い店と新しい店、トラッドとトレンド、旧住民と新しい参入者…建物も人も、店舗形態もクロスオーバーして混在しながら、共存しているのが大名地区である。この地区に東京資本のショップやチェーン店などが参入し始めると、自ずと家賃も高くなり始めた。

大名地区で店舗物件を見つけるのが難しくなったこと、また情報誌やテレビで大名エリアが数多く紹介されて、福岡市民だけでなく市外や県外からも多くの客が訪れるようになると、その喧噪が嫌で他の地区に店を開業する人たちが出てきた。それが、大名に隣接している「今泉地区」である。今泉も古い民家や商店が狭い入り組んだ路地に立地している。またお寺の数が多いエリアであるのも特徴のひとつ。新旧さまざま

まな人、モノ、出来事が混在する町であり、大名とは異なる魅力をもっている。ただし、今泉は大型マンションが建ち並んで、住民が見えなくなりつつある。

現在、天神地区への集客を考えたときに、これら「大名・今泉地区」の魅力を抜きに都心の情報発信をすることは難しい。天神はビジネスとショッピングの町であり、それ以外で訪れる人はほぼいない。しかし、大名・今泉には、住民もいて生活くささやコミュニティが残り、住民と働く人が共に地域活動を行っている。ショップも多種多様であることが町の大きな魅力であり、親富孝通りのように飲食店だけの町になると、どうしても夜しか人を集められなくなる。週末には人が集まるが、平日の特に昼間の町に人が来るかどうかは今後の都心部の大きな課題である。大名地区の昼間を支えているのは、この地区に集中している専門学校だ。これも大名・今泉地区の集客力となっている。

もうひとつ、昨年から注目を浴びている地区を紹介したいと思う。それが「春吉地区」。やはり天神から5分ほど南東部に行けばいい。ここも狭い路地が縦横に走り、古い町並みが残っているが、イメージとして若者が遊びに来るというものとはほど遠い地区でもあった。そんなちょっと忘れ去られていたエリアで、昨年から若手商店経営者が力を合わせて活動を開始し、注目を集めている。地域のホームページを開設して人や店の紹介をしたり、年に2回ほど夜市を開いて地域内・地域外へのアピールを行っている。博多芸者の置屋もこの地区にあるので、道を歩いていると三味線の音が聞こえてくるといった風流な町である。

これまで福岡市の計画は大型のものが中心であり、成功と呼べるものは少ない。ここで紹介する地区にはいずれも行政の手が入っていない、いわば「自律」の地区でもある。住民が住んでいること、若者が商売に参入しやすいこと、地域活動を行っていることなど、これまでの開発が見落としてきたことがこれらの地区には存在し、またそれが集客力ともなっている。しかし、これまでは自律してやってこられたが、今後は防犯や防災、相続など町の課題は山積みである。それらに対して、私たち市民や行政が何をしていけばいいのか、何ができるのかを、この調査研究で考えてみたいと思う。

福岡市中央区天神・大名・今泉地区で引き続き路線価が上昇し、上昇エリアも拡大

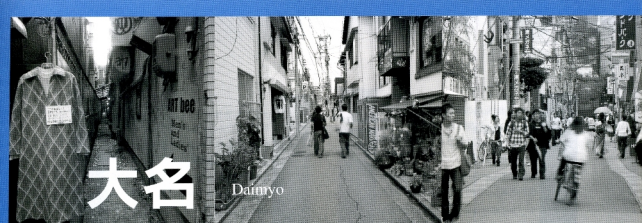
所在地	17年分	16年分	変動率	備考
福岡市中央区天神2-2 北側	2,720千円	2,530千円	7.5%	6年連続上昇
福岡市中央区天神1-4 南側	1,870千円	1,770千円	5.6%	5年連続上昇
福岡市中央区大名1-11 東側	700千円	640千円	9.4%	5年連続上昇
福岡市中央区今泉1-17 南側	230千円	225千円	2.2%	5年連続上昇

福岡市都心年表

1960	天神ビル完成	1978	異常洪水で287日間の給水制限 ライヴハウス・昭和商店 西武ライオンズとなって、ライオンズが福岡を去る
1961	西鉄名店街誕生 博多ステーションビル完成 西鉄バスセンター開設	1979	路面電車全面廃止 天神東急プラザオープン サンセルコオープン 福岡市美術館開館 ライヴハウス・80sファクトリー(親不孝通り)オープン 博多祇園山笠が国の重要無形民族文化財に指定
1962	福岡ビル完成 どんたく、市民の祭りとなる 博多祇園山笠で、集団山見せ開始		
1963	福岡市民会館開館 国鉄・新博多駅完成		
1964	都心の町名変更で天神町、因幡町などの町名が消える 博多駅前以西日本初の地下街が誕生		
1965	新天町創業20周年祝賀会 福岡空港に大韓航空、キャセイ航空が乗り入れ	1980	福岡市植物園開館 福岡市都市高速度路一部開通 バンド来福
1966	岩田屋、高級インテリアショップ・NICを福岡ビルに開店	1981	福岡サンパレス開業 福岡国際センター開業 地下鉄一部開通(室見〜天神) 福岡県庁舎落成
1969	岩田屋、若者向けショップ・サンビーム開店 福岡市商店街百貨店連盟結成	1982	地下鉄一部開通(天神〜呉服町) 福岡市西区を区分して7区となる 天神ビブレ21オープン ライヴハウス・80sファクトリー開店
1970	福岡朝日ビル、サンプラザ商店街開店 福岡商工会議所ビル完成	1983	地下鉄1号線開通(姪浜〜博多駅) 国鉄筑肥線と相互乗り入れ開始 マツヤレディス創業10周年を記念して、アンティ・ウオーホール展開催
1971	因幡町商店街、西鉄街大火 福岡ショッピングセンタープラザ開店	1984	地下鉄(呉服町〜九大病院前)開通 アニエスb、無印良品が天神西通りにオープン 「シティ情報ふくおか」月刊から隔週刊に
1972	福岡市、政令指定都市となる 福岡センタービル、サンプラザ商店街開店 新天町FAVOオープン	1985	岩田屋グループ、総合生活産業を目指す 岩田屋コミュニティカレッジ開講 岩田屋初の真喜専門店・ピラミッドゾーン開店 エリア・ドゥ開店 ソニープラザが新天町FAVOにオープン 大名にSHIPS開店
1973	マツヤレディス開店	1986	地下鉄全線開通 都心界、天神発展会と連名で、新しい天神の街づくりへの要望書を市長に提出 ディスコ・マリアクラブ(親不孝通り)オープン 「情報110番」改め「ふくおか・お助けBANK」開設
1974	飯店てんじんファイブオープン(てんじんファイブ商店会結成で、因幡町、西鉄街統合) 西鉄街を解体し、天神コアビル着工	1987	都心(天神地区)構想に関する提言を福岡市長、福岡都心構想委員会会長に提出 天神コア全館リニューアルオープン 国鉄民営化、JR九州発足
1975	山陽新幹線、博多まで開通 博多デイトス開業 福岡大博覧会開催 西日本新聞会館完成 博多大丸が天神へ移転 路面電車第一次廃止		
1976	天神コアオープン 天神地下街オープン 岩田屋新館オープン ニチイ天神店オープン 都市圏構想推進会議発足		
1977	ライヴハウス・後楽園オープン 天神地下街と博多大丸の連絡地下通路開通		

1988	福岡市庁舎落成 パピヨン24オープン ピア高富オープン 福岡ダイエーホークス誕生 親不孝通りにDJクラブが続々オープン	大分自動車道(玖珠~湯布院)開通(九州のクロスハイウェイが完成) RKB毎日放送、TNC西日本放送が百道に移転 天神エフエム開局 福岡市総合図書館オープン
1989	アジア太平洋博覧会(よかトピア)開幕 福岡タワー、マリノアオープン ソラリアプラザビル開業 イムズ開業 ユーテックプラザ天神オープン 響園公園改築 都心界、渡辺通りにイルミネーション点灯	1997 福岡三越オープン 博多大丸東館(西日本エルガービル)オープン 天神東宝ビル開業 インテリアショップ・NIC開店 LOVE FM(九州国際エフエム)開局
1990	市内デパートの閉店時間が、午後7時に DADAビル開業 ブルーノートフクオカオープン とびうめ国体開幕 ミュージアムシティ天神スタート	1998 劇団四季「キャッツ」ロングラン 西鉄天神バスセンター降車場完成
1991	ベイサイドプレイス博多ふ頭オープン 三越の天神進出が正式決定 もつ鍋、屋台ブーム 台風17・19号が、相次いで福岡市を直撃	1999 スーパーブランドシティ、博多リバレイン開業 ソラリアステージオープン 福岡交通センタービルオープン 福岡玉屋開店 福岡アジア美術館オープン 博多座開業 福岡ダイエーホークス初優勝 ライブハウス・Zepp Fukuokaオープン
1992	岩田屋、ABビル出店を断念 NHK福岡移転 フクニチ新聞休刊 TVQ九州放送開局 ハイアットレジデンスシャルスイート福岡オープン	2000 ホークスタウンオープン マリノアシティ福岡オープン 岩田屋新館開店 福岡市で九州・沖縄サミット蔵相会合開催
1993	地下鉄空港線開通 福岡ドーム開業 博多港国際ターミナル開業 岩田屋、NTT跡地出店を発表 サザビーハウス福岡オープン ハイアットリージェンシー福岡オープン Jリーグスタート	2001 第9回世界水泳選手権開催 2002 ヨドバシカメラ、博多駅前オープン 「ロボカップ2002福岡・釜山」開催
1994	福岡ブルックス誕生 ジークス天神オープン	2003 福岡ダイエーホークス優勝 路上禁煙条例施行 岩田屋西新店閉店(ブラリバとして新規開業) 福岡国際会議場開館 スーパーブランドシティが改称、 イニミニマニモとして改装オープン
1995	ユニバーシアード福岡大会開幕 (130カ国地域が参加) アクロス福岡完成 ホテルシーホーク&リゾート開業 マリノメッセ福岡オープン 九州自動車道、全線開通 福岡ブルックスがJリーグ昇格	2004 岩田屋本館閉館 岩田屋新館開業 九州国立博物館完成(開館は2005年) ダイヤモンドシティ・ルクール(粕屋町)開業 Bivi福岡開業 西日本銀行と福岡市シティ銀行が合併、 西日本シティ銀行誕生 第19回国民文化祭・ふくおか2004 (とびうめ国文祭)開催
1996	キャナルシティ博多開業 岩田屋Z-SIDE開業 天神コアリニューアルオープン	2005 新天神地下街開業 福岡市営地下鉄3号線(七隈線)開業

(出典:「福岡天神 都心界五十年の歩み」(1998年)/「西日本新聞九州アーカイブス2002」/シティ情報ふくおか1500号より)



大名地区の特徴および現状

●大名地区は戦災にあわなかったことも幸いし、古くからの住民が現在も居住している。また江戸時代から続く商業地であったことも影響し、九州一の商業・ビジネス集積地である福岡市天神地区に隣接しながらも、昔ながらの商店街らしい古き良きコミュニティが今も残る地区である。

●現在の大名はファッションナブルな若者の町として福岡のみならず九州全域、あるいは全国的にも有名。週末は多くの若者たちで賑わい、最近では中央の人気ショップも数多く進出している。ただし激戦区だけに店舗の新陳代謝も激しい。

●現在のような若者の町に変貌するきっかけは約20年前にある。一極集中で魅力が均質化していく天神に飽き足らず、自分たちなりの活動ができる場所を求めた若者たちが大名地区に集まり、手作りで個性的な店舗や活動をくり広げた。こうした独自のスタイルが商品や店舗にこだわりを持つ多くのショップを大名に惹きつけている。

●若者たちが大名に注目した要因のひとつに、便利な立地に比較して安い賃貸料がある。この良心的な賃貸料を支えているのが古くからの住民や土地所有者たち。営利目的ではなく、町全体を考える住民・土地所有者がいることが大名の大きな特徴である。

大名地区の課題および行政への要望

●古くからの住民や商店主と、新しく大名に入ってくる若者たちとのネットワークが構築されておらず、今後は世代間を超えたネットワークづくりが課題である。

●大名の住民や商店主には、風俗店などが入ってくることで荒廃した親富孝通りの二の舞いは踏みたくないという意識が強く、と

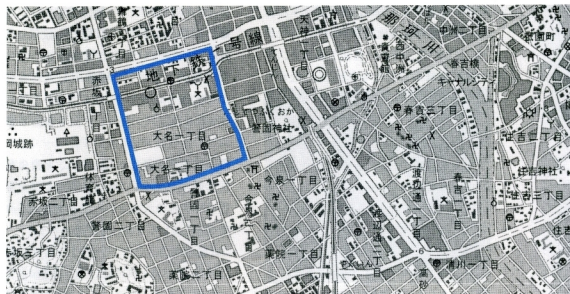
りわけ地域の核であった西通りの秋本病院の移転により地域の荒廃を懸念する声が上がっている。西中洲の前例をもとに風俗店などの入居を防止する条例の制定を望む声もある。

●今後ますます地域住民や土地所有者の高齢化が進み、相続問題などが派生すると思われる。現在は大名地区に居住していなくても土地を手放さない土地所有者が多いが、相続税などの問題で土地を手放すことも考えられる。大手資本などに土地が買い上げられることは町の乱開発につながるため、相続問題も考慮した土地所有のあり方を検討・支援する必要がある。

●大名地区にはブティック・美容室・飲食店などが多いが、文化的施設はほとんどない。多目的ホール、図書館、書店・CDショップ、映画館など、文化的に時間を過ごせる場所を望む声が多い。

●大名地区は基本的に民間の手で独自の発展を続けてきた自律の町である。行政に対しても大きな支援を望むというより、町や住民の活動をしやすくする側面支援を望む声が多い。

※風俗営業等の規制および業務の適正化をはかるため、2004年西中洲地区建築協定を制定



国土地理院提供データ 2万5千分1 レベルの凡例

Copyright © 2003 電子国土事務局 All rights reserved

ふじい まさ
藤井 昌さん

福山不動産代表取締役社長。3代続けて大名に住む地域住民。若者たちには不動産の賃貸だけでなく、開業に関するさまざまな分野での相談相手として大きな信頼がある。現在は紺屋町通り商店会の事務局長も務める。

●大名地区は現在でも開業を考える若者たちに人気が高いが、現実的にはすでに物件が少なくなっており、今泉や春吉地区に少しずつ移ってきている。ただし賃貸料自体は今泉よりも大名の方が若干安い。

●大名の特徴は地域住民がいること。さらに住民間に連携があり、隣が何をしているのかよく知っている。小学校や病院といった生活に密着した場所もあり、町全体のことを住民が考えている。隣が何をしているかを知ることはたいへん重要。自分自身も積極的に声かけをするようにして、新しい住民・商店主・町へ遊びに来る若者たちなどともつながりを持つよう心がけている。

●大名には地域に愛着のある良い大家が多く、それが新しい若者たちを受け入れる素地になっている。ただし今後は高齢化が進み、後継者がいるところはいいが、いないところは相続問題や土地売買の問題が出てくるだろう。

●ひったくり、落書き、ピンクチラシ、タ

パコのボイ捨てなどは増えており、風紀は以前より乱れていると感じる。

●新しい商店主も増えており、商店会などに加入していない店も多い。地域連携のためにはこうした新しい世代との交流も必要で、粘り強く勧誘活動などを行っている。その結果、商店会に加入する新しい店主や、加入していなくても地域活動に参加する店主も現れ始めている。

●自分としては、大名を若者も年配者も気軽に來ることが出来る明るい町にしたい。そのためには単に流行を売る町ではなく、生活の匂いのある町であることが大切。私たちも不動産屋として単に物件の融通をするだけでなく、町のあり方を考えた土地利用や店舗の中身にまで口出しをしている。

●行政に期待することは街灯を設置したりといった町のインフラ整備。また西中洲の事例を参考に、風俗店を入れないような地域条例をつくってはいいと思っている。

●大名以外の地区に関しては、今泉は住民の顔が見えないのが気になる。また春吉は5年前の大名といった雰囲気、今後発展していく可能性があるだろう。

たからべりる様
財部博之さん

祖父の代から3代続けて大名に住む。紺屋町通りにある元米問屋の自宅は明治時代に建てられたもので古い米蔵などが残る奥に細長い町家造り。一角には約20年前にオープンしたエスニック雑貨のショップ「オーク」がある。自宅以外にも大名地区に土地を所有し、ブティックなどの入ったテナントビルも所有している。

●現在の土地・家屋を売却するつもりはない。空襲でも焼けず、祖先が残してくれたものなので、できれば建て替えをせずに建物を再生して使ってもらえるような方法を望んでいる。

●「大名イマンス」というテナントビルを所有しているが、「イマンス」とはフランス語で「無限」を意味し、大名地区の無限の発展を願ってつけたもの。大名地区ではあまり欲張った建物はふさわしくなく、3階建て程度の低層ビルがちょうどいい。建物を建てる時は設計段階から加わるようにしている。

●不動産を貸すにあたっては自分なりのポリシーで貸しており、賃貸料もほどほどを考えている。これは貸した相手にできるだけ繁盛してほしいという気持ちがあるから。

●21年前に「オーク」をやるために貸してほしいという申し出があったとき、最初は貸すつもりはなかったが、先方の根強い

交渉に根負けして貸すことになった。今ではお隣さん感覚でつきあっている。

●土地・家屋に関しては後継者がいるが、相続については法人化しての相続を考えている。現在は法人にはなっていないが、さまざまな要素を考えると最初から法人化するべきだった。私は元銀行員なので不動産の運用について経験を活かすことができるが、こうした面で詳細な情報や支援があると良い。

●今後も大名を離れるつもりはない。いろいろなものが混在しているのが大名の魅力。親子代々顔なじみで、幼なじみもあり、住民は少ないなりに団結力がある。下町的な良さがある一方で、天神などの繁華街にもすぐ出て行くことができ、毎日新しい刺激も受けることができる。こんなに毎日が楽しくて便利な街はほかにはなく、高齢者には非常に良い場所だと思う。



明治時代から残る建物には価格すら差う

さかたひろき
坂田裕樹さん

「キッズクラブ」オーナー。約20年前に古い木造アパートを手作りで改装してショップを始め、現在ではバーや多目的スペースも併設。同時に始まった若手店主たちの活動「大名ビレッジ」の中心人物でもあった。

●20年前に大名に出店した理由は、天神から非常に近い立地でありながら昔ながらの町並や人々の生活が残っていること。天神にはない「サブカルチャーの世界」を展開するにはぴったりの場所だった。また比較的賃貸料も安く、お金のない若者にも店を出しやすかった。手作りで店を改装することを認めてくれる大家さんが多く、ゆとりのある良い大家さんが多かったと言える。

●「大名ビレッジ」という活動を始めたのは、新しい商店主や2代目商店主と、元々の商店会の人たちとの連携を持ちたかったから。そこには親不孝通りのような町にはしたくないという意識が働いていた。実際に人が住むことで、風俗店を入れないなどの効果があると思う。

●最近では店の入れ替わりが激しく、「大名ビレッジ」のようなゆるやかなネットワークがつくりにくくなっている。次の世代との連携は必要だと感じている。

●店舗には東京資本も参入するようになり、人が増えて賑やかにはなったが、偏

った開発になっているのではという危機感がある。大名はバランス感覚にすぐれた町。昼と夜、大と小、住と商など、こうしたバランス感覚をなくしてほしくない。

●できれば死ぬまで大名でやっていきたい。ここは自分のやりたいことをやりたいようにやれる町。夢を実現するためにこの町にいる。今の若者たちも同じような気持ちで大名に来ていると思う。

●元々、大名は行政主導ではなく、民力中心のまちづくりで発展してきた。行政を当てにしていない自律した町であり、それがこの町の魅力でもある。住民の意識も高く、小さい動きでも自分たちでひとつひとつ解決していくことが大切と考える。もちろん行政にしかできないこともあるが、その場合も「住民に意見を聞く」という姿勢を大切にしてほしい。

●現在は飲食やファッション関係の店は多いが、本屋とか文具店のようないくつかの文化的な店がほしい。何かに特化したような店、わざわざ目的地として来るような場所は、商業として儲からなくても町には必要だと考える。

なにごち おきむ
谷口 修さん

約16年前に美容室をオープン。その後、バー、カフェ、雑貨店などを展開。店は前出の坂田氏と同じく古い建物を手作りで改装するスタイルが中心。また家族で大名に住み、子どもは大名小学校に通っていた。

●大名は全国有数の美容室激戦区と言われるが、開業した当時は静かな場所で美容室も少なかった。中心から離れた場所で自分なりのテイストの店をやりたいと考えていたので、のんびりとした大名がとても気に入った。家賃が安かったのも魅力のひとつ。また店内の改装については大家さんも協力的だった。

●大名でやっていくには近所づきあいが必須。コツコツと努力して隣近所との信頼関係を築いてきた。現在もご近所の方々が多く店に来てくれる。地域のふれあいがあるあたたかみのある町だと思う。

●大名にこだわりがあり、ここを離れることはあまり考えていない。もし今から店を出すとしたら赤坂、薬院あたりがいいと思う。

●ここ4～5年は特に町が変わってきていると感じる。昔に比べると事件も多くなり、新しい店主や町に来る人のマナーも悪くなっている。飲食店などではゴミ出しのマナーも問題になり、町の環境にも影響している。事業用のゴミ収集は

日曜日が休みだが、大名では日曜日に多く人出があるので生ゴミを1日おいておくことになる。こうした点は地域の実情に応じて改善してほしい。

●子どもは現在、中学生になっているが、以前は大名小学校に通っていた。都心部なので事件を心配する声もあるが、人の目が多いのでかえって安心。また地域活動も盛んで、PTAなど親同士も顔見知りが多い。どこの誰の子どもかすぐわかるので、むしろ田舎の分校のような良さがある。学校に限らず地域コミュニティがちゃんとある町だと思う。

●大名は学校、郵便局、銀行、ショッピングなど、生活のすべてが歩いて行ける範囲にあり、すべてにおいて便利の良い町。何でも近くにあるので車がなくても生活でき、私たちのようなファミリーにも、また高齢者にも楽な町だと思う。職住近接で商売をするにも都合が良い。また町の中には緑は少ないが、少し歩けば舞鶴公園や大濠公園などもあり、散策にも最適。

●飲食とファッションだけでなく、本屋・CDショップ・ホール・映画館など文化的施設があると良いと思う。

こもん ひさし
小門 壽さん

2005年3月まで大名小学校校長を務める。大名小学校は創立132年の市内で最も歴史ある小学校のひとつ。2005年3月現在で在校生103人、市内でもいちばんの小規模校で全学年1クラス。小門氏は以前は舞鶴小学校校長を務め、都心部の小学校での独自の活動に力を入れてきた。

●小学校は地域のコミュニティスクールであり、学校が元気になると地域が元気になる。こうした考え方のもとで、積極的に地域の方々との接点を持つようにしている。ゲストティーチャーとして地域の人々を招いたり、地域のお年寄りとのさまざまな交流会を行っている。運動会は約10年前から町内の運動会と同時に開催。また地域の郵便局の協力で、毎年、高齢者の方々に小学生たちが年賀状を書く取り組みもしている。総合学習の時間では不法駐輪追放運動やゴミひろいなどの活動を取り入れ、地域の問題に根差したさまざまな活動を行っている。

●少人数のためにアットホームな雰囲気が漂い、子どもたちも非常に純朴で素直。その一方で6年間ほとんど児童の出入りがない環境だけに、人間関係での切磋琢磨や勉学を競う雰囲気には乏しい。掃除や集会活動、給食などは学年ごとではなく1～6年の縦割りグループで活動するなど、より幅広い人間関係が持てるように配慮している。

●大名に住むことに誇りを持てるように

なることを目標に、あいさつ運動、ボランティア活動、5分前行動などの方針を掲げて活動している。学校を良くすることは子どもたちを良くすることにつながり、さらに子どもたちへの教育は町を良くすることへとつながっていく。そういう意味では学校教育には大きな意義があると考えている。自分たちの地域は自分たちで良くしていくという意識が大切。

●昔からの大名の住民はかなり高齢化している。一方、小学校に通っている児童の保護者には大名で生まれ育っていない人も多く、こうした世代間の断絶は進んでいる。住民間の連帯感をつくる動き、また住民を増やすための施策は必要と考える。



町の中の分校とでも呼びたい大名小学校

INTERVIEW 6

とうの だし
東野 正さん

3年前にテイクアウトの小さなクレープ屋を大名にオープン。その後、小倉や天神にもテイクアウトショップを展開し、今年1月にはゆつくり座れるカフェも大名にオープン。東京で家具メーカーやインテリアショップに務めた経験を活かし、店舗の設計から施工までを自分で管理している。

●出店するときにはいろいろ見て回ったが、大名の路地裏的で細々した雰囲気がとても気に入った。また歩いている人々が自分がイメージする客層にぴったりで、ここならあまり来てほしくない客は来ないのではないかと思った。

●狭い場所での活用法に興味があるので、今後も大名近辺で店をやっていくことを考えており、他のエリアに出店することはあまり考えていない。今は飲食店だけが機会があれば雑貨などの物販もやってみたい。

●起業する際には実績がないこともあり、最初の1軒目を借りるのに苦労した。特に飲食店はゴミなど環境への影響もあって毛嫌いされる傾向が強い。ゴミ出しのマナーでクレームがつかれたりしたが、近所づきあいのひとつとして誠実に対応している。

●1号店の開店資金として自費で200万円を用意したが、この金額では甘かったと

思う。また、お金を借り入れる予定がなくても銀行などから融資が受けられるぐらいのきちんとした事業計画書は書いておくべき。ここへ来るだけで夢が実現すると考えている若者は多いが、大名地区での成功はそう簡単ではない。

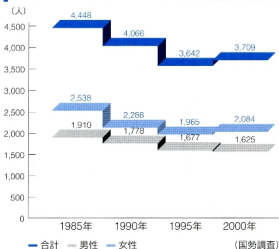


半地下になっている元は駐車場だったスペース



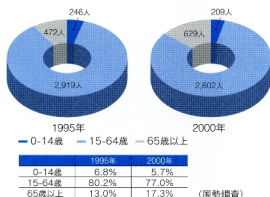
同じ大名エリアに、新たにカフェをオープン

大名1・2丁目の人口推移(性別人口)



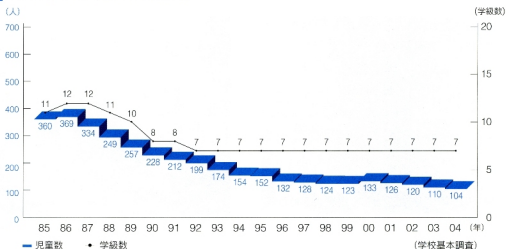
若者の町として活況のイメージがある大名地区だが、居住する地域住民については、1985年からの15年間で約16.6%の人口減少となっている。

大名1・2丁目の人口推移(年齢別人口)

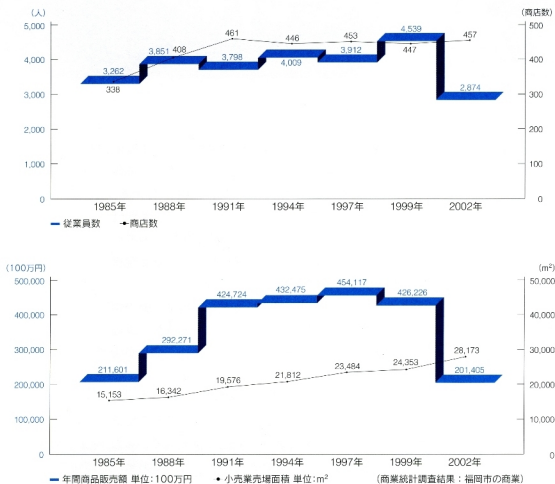


1995年からの5年間で、65歳以上の高齢者人口は約33.3%増となっている。一方、14歳以下の人口は約15.0%減となっており、地区住民構成の高齢化が顕える。

大名小学校児童数の推移



大名1・2丁目の卸売業・小売業商店数等の推移



従業員数（月18日未満勤務の臨時雇用、派遣・出向社員を含まない）は1999年をピークに極端に減少している。小売業売場面積は年々緩やかな伸びをみせているものの、年間商品販売額は1997年をピークに減少している。



今泉地区の特徴および現状

●国体道路を隔てて大名地区の南に位置する今泉地区は、比較的古くからの住宅地で現在も多くの人々が居住している。ただし近年は一戸建てが減り、多くが中高層のマンションに建て替わっている。また地下鉄3号線開通の影響もあり、中心地に近いといった利便性を重視した若い世代の家族・一人暮らしなどの世帯が増えてきている。大名地区が商業地として発展したのとは対照的に、今泉は現在でも住居が中心の地区である。

●大名地区の商業集積が飽和状態になってきたここ数年、街の中心が次第に南下し、今泉にも店舗が目立つようになってきた。以前は何もなかったマンションの1階にオープンする店も多く、それが少しずつではあるが街全体の明るさやにぎわいにつながってきている。一部地域（上人橋通りなど）ではかなり店舗開発が進み、むしろ飽和状態にある。ただし今泉は天神に隣接する一等地であるため地価が高く、賃貸料などは決して安くはない。もともと住宅地であったこと、賃貸料が高いことなどで、奥まったエリアでは店舗の進出はそれほど進んでおらず、それがかえて大名地区に飽き足らないこだわりの店を呼び寄せる要因になっている。

●今泉の一部地区にはラブホテルが集中し、また近年は狭い路地を悪用したひったくりなどの犯罪被害も多い。そのため治安や風紀の面では一般にあまり良いイメージがない。現在は店舗の増加や公園整備などで少しずつ街並も変わってきている。

今泉地区の課題および行政への要望

●現在の今泉地区の最大の課題は防犯対策。暗くて狭い路地が多く、また中層以上のマンションが林立しているため、人通りが少なく、人の目が届きにくい環境にある。ひったくり件数は市内の他地区に比

較してもかなり多く、強盗・空き巣などの問題もあるようだ。こうした環境の改善が早急に望まれている。

●今泉には昔から居住する人や一戸建ての家も残っているが、多くがマンションに建て替わり、その増加にともなって新しい住民とのコミュニケーションがとりにくくなっているという問題が持ち上がっている。特に一人暮らしや共働き夫婦の増加、さらにオートロックマンションの増加で、地域住民であっても顔を知らない人々が増えている。

●商業地に近いという立地特性から地価が高く、固定資産税や相続税が古くから住む人々にとっての大きな負担になっている。今後、世代交代が進むと今泉の土地を手放す人や、ビル・マンションなどに建て替える人がますます増え、地域コミュニティ形成の面でも大きな問題になってくると考えられる。

●地域住民の多い今泉では、店舗開発が進むにつれて住民から騒音や周辺環境などへの苦情、また住民と商店主との町に対する考え方の隔たりが顕著になってきている。今後の発展のためには住民と商店主との相互理解と共存のためのコミュニケーションが必要とされている。

●行政および警察に望むことの第一は防犯対策の強化。明るい街並や道路の整備とあわせて、交番などの設置を望む声もある。なお、住民や商店主の意向を無視した施策ではなく、あくまで地域の声を重視した対応が望まれている。



INTERVIEW 1

ちょう こうよう 張 光陽さん

国体通りに面した中華料理店「福新楼」社長。「福新楼」は101年の歴史を持ち、張さんで4代目。また国体道路をはさんで南側に位置する今泉地区に居住して約30年になる。警固小学校のPTA会長なども歴任。

●今泉地区は、昔は一戸建てが多かったが商業地域に属するため容積率が高く、地価の問題もありマンションが次々に立つようになった。また地下鉄3号線の開通でさらにマンションが増え、インフラが整ったこともあり、最近では子育て世代も多く住んでいる。ただし現在でも昔からの住民がおり、一軒家もまだいくつが残っている。

●ラブホテルなどが多いため環境面で悪いイメージがあるが、実際にはラブホテルがあるだけでは地域に大きな悪影響を与えているとは言えない。むしろパチンコ店が建ったり、キャッチセールスが行われて景観が損なわれることの方が問題だと思う。また今泉地区で問題行動をしているのは地域の子どもや若者ではなく、他所から来た人たち。地域の住民や子どもたちの間にはコミュニティが形成されている。

●天神から歩いてすぐという立地は素晴らしい、これほど便利な場所はあまりない。ただし立地の良さから地価も高く、固定資産税や相続税の問題がある。高

い税金のためにしなくてもいい借金をするケースもあり、相続問題でマンションに建て替わる例も少なくない。今はまだ土地を持っていて頑張っている人々がいるが、相続問題は今後の大きな課題だと思う。

●最近はワンルームマンションが増え、若い新しい住民も増えている。こうした人々は地域とのつながりが薄く、町内会の伝言を回しても留守で連絡がとれなかったり、マンションの入口で応対するだけで直接会えない人も多い。そういう意味では住民の顔が見えない街になりつつある。

●大きな問題は犯罪。ひったくりが多く、夜は安心してひとりで歩けないという話はよく聞く。マンションが多いため、見通しのきかない町になっているのが気になる。

●地域のコミュニティ活動があまり活発とは言えないが、今年から防災訓練を行う計画もある。夏祭りなど地域行事にも力を入れていきたい。

●福岡市は比較的ちゃんと要求に応えてくれる行政だと感じている。要望が受け入れられない場合は、こちら側のお願いの仕方に問題があることも多い。

もり ともりの
森 智範さん

3年前に今泉にオープンしたカフェレストラン「パロマグリル」のオーナー。大分県出身で福岡に居住した経験はなかったが、立地などに魅かれて出店。現在は店舗の2階に住み、今泉地区の住民でもある。

●福岡で出店したいと思い、100件近くの物件を見たが、天神地区は家賃が高く、なかなかイメージ通りの場所は見つからなかった。現在の店舗は一步下がった場所にあり、最初からピンとくるものがあった。元は住居だったものを改装し、自分もその2階に住んでいる。賃借に関してはほとんど問題なくスムーズに借りることができた。

●店をオープンした3年前はほとんど人通りがなかったが、最近は以前に比べて明るくなり、通行量も増えたと思う。また新しいショップも増え、若い人が増えたと思う。大名の延長として見ている人もいるが、大名よりも目的を持ってくる場所で、客層は少し年齢層が高いと思う。またラブホテルなどがあることで抵抗感を持つ人もいるが、むしろ今のバランスでいいと思っている。大名のようになって、個性が埋もれてしまうのはいや。

●今泉での家賃は坪2万円程度で、決して安いとは言えない。今泉に出店したい人が増えたため、家賃をつり上げている傾向がある。開業資金としては3ヶ

月間の運転資金を含め2000万円を用意した。今泉は新しい商業エリアとして注目を集めているが、今泉だから成功できるほど甘くはない。

●居住していることもあり、町内運動会などの地域活動にも参加している。近所づきあいもあり、子どもも老人も住んでいる地区。風呂屋などの生活に密着した施設もある。できれば地域への恩返しとして小中学校での食育・マナー教室のようなものをやりたいと思っている。

●今泉の最大の問題は防犯。ひったくりが多く、強盗や空き巣などもあっている。狭くて暗い路地が多いため、うちのお客にも気をつけて通行するように呼びかけている。もう少し街全体を明るくして、交番などをつくってほしい。今泉公園の近くに交番があると安心感があると思う。

●今泉は新しい価値観を試すには非常にいい場所。例えば行政が持っている施設を一般にも貸し出すなど、柔軟な思考で対応してほしい。

INTERVIEW 3

かわぐちひろはる 川口広晴さん

今泉にある川口不動産商事代表取締役。同社は父親である先代社長が昭和43年に始め、平成6年より広晴さんが受け継ぐ。大名・今泉を中心に香吉などの物件も多数取り扱い、今泉に隣接する警固地区に居住。

●以前は大名や西通りにも何もなく、今泉もほとんど開発が進んでいなかった。それが大名が先に発展して家賃が高くなったために、約10年前から今泉に出店を希望する人が増えてきた。現在、平均的な家賃は坪当たり大名で3万円、今泉で1.5～2万円。最も店舗の進出が集中したのが上人橋通り。現在も出店希望者が月に何百人と物件を探しに来ている。

●どこかの店が成功すると口コミでいろいろな人が探しに来る。新しい開拓をするチャレンジャーがいなくて街は次につながっていかない。大名・今泉地区でいえば一風堂の河原社長。その成功を見た人々、あるいは一風堂から独立した人々がゆかりの地で創業する事例が多数ある。また、このエリアには独立心旺盛な商店主が多く、そうした人々には店で働く後輩たちの独立も応援する気風がある。これが次の世代が育つ要因となっている。

●不動産業者としての立場から考えると、大名・今泉の発展はすでに終わっていると思う。競争が激しく、似たような

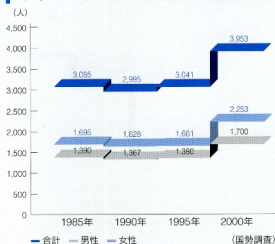
店が多いため、よほどマーケティングをきちんと行って新しいことをしないと成功しない。表面的な人通りや雰囲気だけに依存していると店を続けていくのは難しい。

●大名・今泉の次に注目しているのが春吉・西中洲地区。何よりも家賃が安く、それでいて天神に近い。多くはないが繁盛店が点在し、客単価が高い。大人の遊び場的雰囲気があり、客層も悪くない。今後の出店を考えている人には今泉よりこの地区をすすめている。これ以外のエリアでは対馬小路・須崎、また家賃が最低ラインまで下がった親富孝通り周辺もおすすめ。

●今泉には店舗もずいぶん増えたが居住者も多い。こうした住民と商店主との相互理解・交流が大きな課題になっている。双方が理解して街のことを考えなければ今後の発展は難しいと思う。

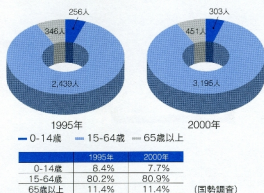
●行政には積極的な施策よりもあまり何もせずに街の自然な発展に任せることを望む。一方通行やガードレール設置など、中途半端な道路整備はかえって流通を妨げ、街の渋滞を起こしてしまう。

今泉1・2丁目の人口推移(性別人口)



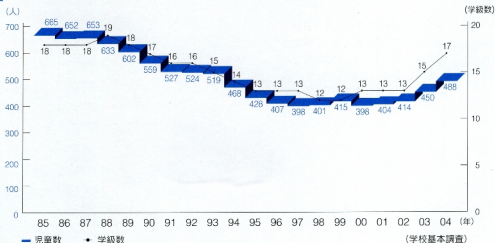
1995年からの5年間で約30.0%の人口増となっている。近年のマンション建設ラッシュが示すよう、居住人口が急激に伸びている。

今泉1・2丁目の人口推移(年齢別人口)

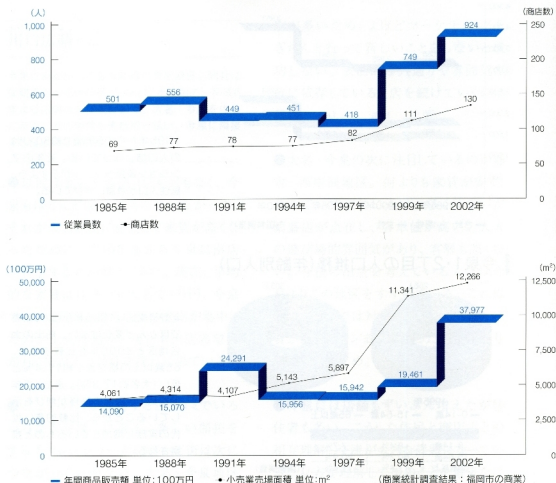


年齢構成比は1995年からの5年間でほとんど変化はない。前出の大名地区と2000年を比較すると、65歳以上の構成比が約11.4%と低い(大名約17.3%)。また、近年児童数・学級数の推移が伸びを示していることから、比較的若い世代の家族が増加しているものと推察される。

警固小学校児童数の推移



■ 今泉1・2丁目の卸売業・小売業商店数等の推移



1997年以降の5年間、従業員数・商店数・年間商品販売額・小売業売場面積のすべてにおいて右肩上がりの伸びを示しており、近年の商業店舗進出の増加を裏付けている。

がんばれ！大名—地震からの復興



2005年3月20日の福岡県西方沖地震からおよそ3か月、大名地区周辺で集中的に被害が発生していることが分かった。被災した大名地区の住民や店舗はそれでもこの地区でがんばろうとしている。地震があった当日、大名小学校の校庭には、住民やショップの店員、大名を訪れていた若者や通行人、周辺ホテルの宿泊していた人たちで埋め尽くされていた。2005年の年始めに防災訓練をしていた大名校区だったが、休日ということもあり、中央区役所からは毛布や防災道具がなかなか届かない。避難勧告を受けた避難者たちが、その後もぞくぞくと大名小学校と公民館に駆けつけた。小学校の体育館でその夜を過ごしたのはおよそ250人に及んだ。

自治体もてんやわんやの状態の中で、この避難者たちと町の防犯などの指揮をとったのは大名校区自治連合会や公民館で働く人たちだった。ちょうど春休みを迎えたばかりの小学生たちも近所から手伝えることがあれば…と駆けつけた。大名地区の飲食店やパン屋さんからも多くの差し入れがあり、ホテルからも食料や毛布が届いた。

九州一の繁華街・天神から歩いて5分の都心に、このような「コミュニティ」が存在している。実際、大名で働き住んでいる避難者になった人の話を聞いても、日頃から清掃活動や防犯活動で校区自治会のメンバーを知っていたり、地区に多くの顔見知りがあったことで大いに助けられたし、安心だったと語っている。

しかし、避難先から戻った翌朝、住民やショップのオーナーたちは信じられない光景を目にした。被災した建物を中心に多くの

落書きが壁に書き殴られていたのだ。大名地区は市内でも有数の「自主防犯推進地区」である。約20年前に住民による校区防犯パトロールが始まったが、1998年からは月に2回、中央署や区役所、またNPOや企業のメンバーも巻き込んだ合同パトロールを実施している。人が集まれば集まるほど、落書きや駐車違反、キャッチセールスひったくりなどが増え、治安の悪化が問題になる。そのためのパトロールでもある。

このような防犯推進活動と並行して、活動しているのが「あすみん消しゴム隊」だ。2003年10月に大名にある「NPO・ボランティア交流センターあすみん」の開設1周年記念行事の中で生まれた。目にあまる大名地区の落書きを消す地域マナーアップを目指している。地震後の4月20日土曜日、清掃活動を行っているNPO法人グリーンバードの福岡支部とともに大名地区の落書き消しと清掃活動が実施された。この活動の呼びかけに応じた人たちはおよそ50名。落書きを消す洗剤はペイントメーカーが寄付してくれた。

店舗の被害も大きかった。そんな中、大名の不動産屋の社長は途方に暮れていたショップオーナーに「空き部屋があるから、直るまで移らんね」と声をかけた。店舗のオーナーはその一言でバツと気持ちが明るくなったという。店舗同士で片づけを手伝いあったり、地震後の不安な気持ちを、大名にある店で客とオーナーでお互いに励まし合ったりもした。大名地区で働く人はこの町を「寂しくない町」という。お互いに声かけあえる「都心のコミュニティ」が生きているのだ。地震災害が、それを改めて教えてくれた。



春吉

春吉地区の特徴および現状

●春吉地区は大名地区と同じく戦災で焼けなかったこともあり、現在も古い路地が残り、昔から居住する人々や古くからの商店が残っている地区である。特に市内でも最古の商店である「兵助筆復古堂」をはじめ、古くからの老舗やフランス料理などの高級店も点在している。その一方で検番や昔の遊廓跡などの色街の雰囲気も残り、また柳橋市場を代表とする庶民の生活を支える店舗が数多く存在するなど、さまざまな要素が混在した街である。

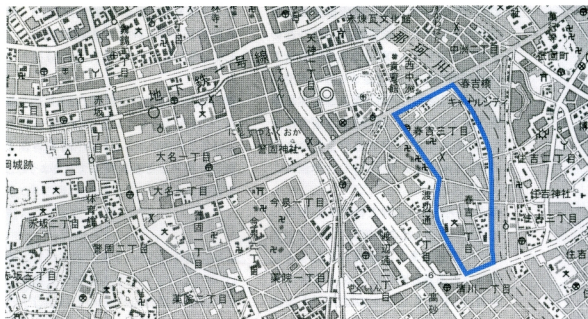
●一時期、色街だったこともあり、治安や風紀の面であまりよくないイメージが残っているが、現在の春吉は若者たちが集まる新しいスポットになりつつあり、それが街のイメージを大きく変えつつある。大名→今泉→薬院と南下してきた新しい商業スポットが、ここ2～3年は春吉地区にも影響し、路地裏などに若者たちが集うような店舗もできはじめている。また街の若手有志たちによるまちづくりの集団「晴好実行委員会」ができ、将来へ向けた自主的な取り組みが徐々に始まりつつある。

●新しい商業スポットとして注目を集めているが、街の特性からあまり若い世代ではなく、大人が遊ぶ場所としての色合いが濃い。また店舗が広い地域に点在しているため、来街者もふらりと遊びに来てあちこちに寄るといった行動パターンではなく、特定の店をめざして来る場合が多い。そのため客も店主もレベルが高く、玄人としてのプライドや雰囲気を持つ街である。

●天神にも博多駅にも近い立地は近年大きく注目を集めているが、地価自体はそれほど高くない。そのため出店を希望する人も多いが、住宅を基本とした街であるため店舗スペースが限られ、新規の出店率は高くない。また既存の店舗は小さいものが多く、こうした要素が大手資本の参入を阻んでいる。

春吉地区の課題および行政への要望

- 昔ながらの狭く暗い路地も多く、ひったくりなどの犯罪件数が多い。道路の拡張などを含めた防犯対策は地域の人にとっても、来街者にとっても大きな課題である。
- まちづくりの活動は一部では活発化しているが、まだ街全体で取り組む動きにはなっておらず、今後どれだけ多くの人を巻き込んでまちづくりをしていくかが大きな課題になっている。特に春吉地区は昔からの個人商店主が多く、独立独歩の精神が強いため、他に協調するという意識が弱い。また世代間にもギャップがあるようで、年配者にはまちづくりの情報が伝わっていない。
- 独立精神の強い街でもあり、行政からの支援はインフラ整備などの大きなものをのぞき、基本的には側面支援、自分たちのやりたいことをやりやすくする支援を望んでいる。



国土情報提供データ 2万5千分1 レベルの凡例

Copyright. ©2003電子国土事務局. All rights reserved

ともぎよけんじ
友添健二さん

春吉地区にある酒店「友添本店」の2代目。現在の店舗は3年前に移転したもので、100年以上前の博多織工場を改装したもの。生まれも育ちも春吉で、昨年から有志で街の将来を考える「晴好実行委員会」を発足。

●春吉は個人商店の街で、小さいけれども人に任せずに経営しているオーナー店がたくさんある。そのため、とても個性的な店舗や人々が集まっている。地域には根強い絆もあり、古くからの歴史もある。地域住民はこの街にプライドを持っている。ただし、まちおこしに関しては個人主義的傾向が強く、まとまって活動することがなかなか難しい。

●立地的には天神にも博多駅にも近く、非常に良い場所にあると思う。市内でいちばん古い歴史ある商店や高級料理店がある一方で、柳橋連合市場などの生活に密着したもの、また検番など大人の遊び場もある。さまざまなものが混ざり合った魅力があり、大人が遊ぶ場所だと思う。また何となく訪れる街ではなく、ピンポイントで自分の行きたい店をめざして来る街。

●大名→今泉→薬院と街の中心が移ってきているが、どこか流行にふりまわされている面がある。薬院の次は春吉に移りつつあると感じている。「晴好実行委員会」を立ち上げたのは、こうした流

れを反面教師に、ふりまわされる前に自分たちの街の魅力をアピールしようという気持ちがあったから。

●商店主だけでなく住民も多く、さらに中間世代がいるため上の世代とも下の世代ともつながっている。人材面では大きな問題はないか、これから問題が表面化するのではないか。

●最近では春吉で開業したいという若者も増えているが、テナントビルがないため実際に開業する場所がない。むしろ急激に増えないことが良い方向に作用していると思う。賃貸料はかなり安い。

●現在の課題はひったくりなどの防犯。暗い路地などもあり、危険なスポットもある。また平日は人通りがあるが、日曜になるとほとんどの店が閉まっており、賑わいの面からも休日に店を開けるようにしていきたい。

●行政への要望としては、こちらのやりたいことをやりやすいようにサポートしてくれることを希望。イベント時の各種手続きや認可なども簡便にできるようにしてほしい。

き ど ひろし
城戸啓志さん

有名イタリア料理店での修業の後、4年前に春吉にダイニング「りんご家」をオープン。隠れ家的雰囲気と手頃な価格の料理が評判を呼んでいる。春吉の住民ではないが、商店主として「嗜好実行委員会」にも参加。

●自分の店を出すために市内のあちこちを見て回ったが、大名・今泉は出店する場所ではないと思った。最大の理由は客層。それなりのレベルの料理を勉強してきたこともあり、味のわからない若者より自分と同世代ぐらいの客を相手にしたいと考えていた。当初、春吉には風俗やヤクザなどのイメージがあり出店は考えていなかったが、若い知人女性が一人暮らしをしていると聞いて興味を持った。実際に見てみると昔のイメージとはずいぶん雰囲気が変わったことに驚いた。また「カジュアルな大人のイタリアン」という店のコンセプトを実現するには場所も客層もぴったりなのではと思った。

●出店を決めた当初は周囲からずいぶん反対されたが、むしろ春吉でやりたいと強く思うようになった。結果としてはここ3～4年でずいぶん発展し、新しい店もできて明るくなってきたと思う。春吉を選んで正解だったと思う。

●家賃は非常に安く、いろいろ見て回った印象では今泉の半額ぐらいだと思う。ただし街のつくりから店舗用の建物が少

なく、あっても小さいところばかり。最近では春吉に出店したいという人も多いようだが、実際に出店するのは難しくなっている。

●春吉は博多・天神・中洲をつなぐポケット地帯で立地もよく、今後発展する可能性を秘めていると思う。決して品のいい街ではないが、その中に古くからの伝統や博多っ子の暮らしなどが融合し、ミスマッチなところがこの街の大きな魅力になっていると思う。便利はいいが、何かのついでに寄る街ではなく、わざわざここをめざして来る街だと思う。

●春吉はいろいろな意味で玄人の街であり、大人の街。こだわりのある人が集ってくる場所で、味・人・雰囲気などサービスや内容も一定レベルのクオリティがないと成功しない。大名・今泉でうまくいく営業戦略も、中身がなければ春吉では通用しないと思う。

●お客には地域住民も多く、年配の人も食事などによく利用してくれる。町内会の会合をこの店で行うこともある。そうした地域のつながりがある街。

INTERVIEW 3

かわはらだ あきら

河原田 明さん

1501年創業、市内で最も古い老舗「兵助筆復古堂」の店主。河原田さんは初代から数えて10代目。創業地は川端だが、現在の店舗は春吉にあり、以前は住居としても使用していた。河原田さんは春吉小学校に通学。

●以前は春吉には店舗がなく、現在の店舗地は祖父母の住居として使用していた。当時のこのあたりは町の中心地に近くて便利なこともあり、比較的高級な住宅街で文化人などが住む地域だった。戦災で中洲が焼け、戦後は中洲にあった検番や遊廓などが春吉地区に移動してきた。そのため町の雰囲気が大きく変わり、その後は風俗店などが進出してきた。ただし、春吉地区は戦災で焼けなかったこともあり、戦前から居住するお年寄りなども多い。

●バブル期には立地の良さもあって建て替えや土地を売ってくれという話が多かったが、先祖代々の土地でもあり、そういう話にはのらなかった。結果的にはそれが良かったと思う。今後も土地を売るつもりはない。

●現在は春吉に居住していないこともあり、地域内のおつきあいはほとんどない。晴好実行委員会なども活動しているようだが、特に声もかからず関係は持っていない。春吉地区にはお年寄りが多く住んでいるが、そうした人に情報が入って

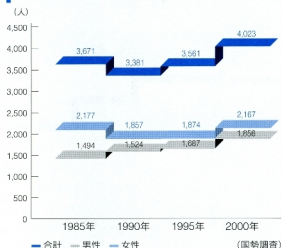
くることが少ないと思う。

●お年寄りや子どもが安心して遊べる町にしてほしいと思うし、そのためには大規模な開発はどうかと思う。ただし天神が発展する一方で春吉は土地の値段も上がらず、道幅も狭くて暗い。行政にはもう少し道路を広くするなどの対応をお願いしたい。



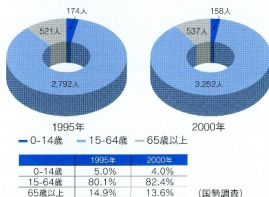
明治6（1873）年に創設された春吉小学校

春吉1・2・3丁目の人口推移(性別人口)



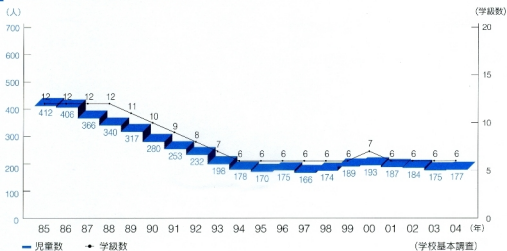
1990年以降、居住者人口は着実な伸びを示している。特に1995年からの5年間では約13.0%増となっている。

春吉1・2・3丁目の人口推移(年齢別人口)

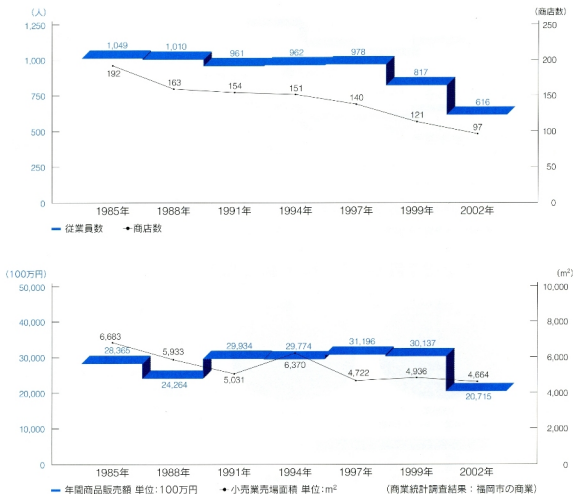


1995年から5年間の年齢構成比の推移をみると、15-64歳層のみが約80.1%から約82.4%へ微増となっている。また、前出の大名・今泉地区と比較して、2000年の構成比で14歳以下の層の比率が、わずか約4.0%（大名約5.7%、今泉約7.7%）となっており、大人の住む町としての顔が窺える。

春吉小学校児童数の推移



春吉1・2・3丁目の卸売業・小売業商店数等の推移



従業員数・商店数・年間商品販売額は、1997年以降緩やかに減少傾向にある。小売業売場面積はほぼ横ばい状態。春吉地区は基本的に住宅地であり、大規模な商業開発が行われてこなかったことの証といえる。



街への思いを紡いで活気づく“晴好”

「夜な夜な町を歩いていると、あちこちから生バンドの音が聴えてくる。『わぁ〜、こんな街、他にはない』と思った」。

3歳から春吉で育ち、現在は100年前に博多織の工場として建てられた旧い建物で酒販業を営む友添健二さんは、春吉の魅力を再発見した瞬間をこう振り返る。

「にもかかわらず、イメージが悪い。『妖艶な街』『淫靡な街』というイメージがあって、人が寄りつきにくい。こんなにいい場所なのに、もったいないやないか。もっとアピールしよう!」。

そう思い、友人のカメラマンを巻き込んで「晴好実行委員会」を立ち上げたのが2004年2月のこと。最初に目指したのは、春吉の魅力を発信するホームページづくりだった。

年間1万円の協賛を呼びかけて店々を回ると、意外にも年輩者の反応が良いのに驚かされた。「〇〇ちゃんがしようなら、よかたない!」。知り合いの店が参加したと聞けば、ぼんと参加してくれる。ホームページ云々はよくわからなくても、「彼が応援しているなら」という理解で動いてくれる心意気。そんな街に眠々と息づいている人々の絆が、若い世代のアイデアをぐんぐん後押しした。

50軒の協賛店が集まり、2004年10月にホームページを開設。その内容も、ありがちな協賛店紹介の羅列ではなく、プロのカメラマンとライターが自らの視点で題材を探し取材した記事が中心。この街の人や文化の魅力を、しっかり掘り起こして発信していこうという“まちおこし”の姿勢が明確に現れたものとなった。

現在、75を数える協賛者の顔ぶれも多彩だ。一般の商店や飲食、サービス店にとど

まらず、学校、医院、神社仏閣までも名を連ねる。他にも、地域の駐在所、学校、公民館、消防などの人々もホームページに情報や記事を寄せている。“街を愛する”という一点で活動を繰り広げてきた結果だろう。

実行委員会の活動のもうひとつの柱となりつつあるのが、祭り型イベントの「晴好夜市」だ。第一回は昨年11月。当初、ホームページを見る設備もない協賛店が多かったため、親睦会のつもりで「目に見えることを」という出発点だった。実際にスタートすると企画はみるみる盛り上がり、いざ蓋を開けてみればフリーマーケットや飲食、健康相談、占い、マッサージなどの出店が並び、ライブ演奏なども繰り広げられる立派な祭りとなった。山崎市長も含め、およそ500人の人が訪れ、夜遅くまでにぎわい大成功を取めた。

勢いを得て今年5月に開催された第2回では、子どもらも含め地域の人々に広く楽しんでもらえるよう内容や開催時間を工夫し、約1,000人が訪れる大盛況ぶり。また、夜市の前後2週間にわたって、福岡・佐賀の多彩なアーティストが春吉地区の50カ所でアート作品の展示を行う「アートサバイバル」も開催。時間的な広がりとともに、点から面へ、街全体を使ったイベントづくりの試みも始まっている。

「続けばいいし、発展していけばいい。けれども、しなけりゃいけないという形はつくるまい」。友添さんはそう考えている。「しないならしくてもいい、というところで『やってみよう』『これならオレにもできる』というものがあればいい」。そんな思いの連鎖が、街に新しい生命を吹き込み、文化を育てていくのだろう。

1 「歩けるまちづくり」の提案

大名地区に駐輪場の設置を

大名・今泉・春吉に共通するのは路地裏の良さや歩いて散策する楽しみがあること。大型施設はないが集客力があり、人々が界隈を回ることによってにぎわいが生み出されている。そうした良さを活かして、より積極的に「歩けるまちづくり」を行うべきではないか。ただし、現状では歩いて街を散策する場合、多くの問題がある。特に問題となるのが不法駐輪で、これは最も集客力のある大名地区で顕著となっている。

大名は職住遊が近接しており、また道路の幅員から車では通行しにくい地区となっている。そのため自転車が最も有効な交通手段だが、地区内にはまったく駐輪場が整備されていないため、道端や店頭に自転車を止める不法駐輪が増えて交通の大きな障害となっている。地区内に駐輪場がないことは、大型施設がないために駐車場の附置義務がないことも影響している。

解決策としては自転車を締め出すのではなく、地区内に駐輪場を整備することを提案する。手法としては2通りの考え方があり、ひとつは空きスペースに小さな駐輪場をいくつも造る利便性を重視した方法がある。これは街中の移動に自転車が使われるオランダなどで見られる手法である。もうひとつは地域内のわかりやすい場所に、ガラス張りなど目に見える形でのシンボリックな駐輪場を設置する方法。利便性では前者に劣るが、人々が認識しやすい建物を設けることで駐輪への意識を啓発する役割がある。また駐輪場の用地としては民有地を活用することで、地域の活性化に役立つことができると考える。

地域のインフォメーションセンター

欧米の各都市には駅前や地域ごとに観光客などを対象にしたインフォメーションセンターがある。地域の観光情報



歩道から奥まったスペースに止められた自転車



歩行のジャマになる駐輪が増えている

や宿泊の案内などをする場所で、無料で誰もが気軽に利用できる。こうしたインフォメーションセンターは「歩けるまちづくり」には欠かせない要素である。

以前、大名地区には「お助けバンク」と呼ばれるインフォメーションセンターがあった。ここでは何かわからないことに応えてくれ、地域の情報発信の役割も果たしていた。このインフォメーションセンターは従来の観光案内の拠点ではなく、さまざまな機能を持つものである。こうした現代の集会所、あるいは以前の公民館のような機能を持ったインフォメーションセンターの設置が望まれる。特に近年の大名地区は九州各地から多くの人々が訪れる場所となり、集客やおもてなしサービスの意味からも必要性が高い。

また、こうしたインフォメーションセンターの運営には地域の人々や商店などが参画できる仕組みをつくり、サービスに応じた対価が得られるようなシステムが望ましい。



以前は大名のこのビルの1階にインフォメーション機能があった

交番などの防犯対策

「歩けるまちづくり」には安全・安心の街であることが重要だが、残念ながら大名・今泉・春吉のいずれの地区でも、ひったくりなどの犯罪が多数起きている。これは路地が狭く、見通しが悪いことに起因しており、特に夜間の人通りが少ない今泉地区では大きな問題となっている。

対策のひとつとして交番の設置が考えられる。例えば今泉公園に隣接した場所に交番を設置し、警官が常駐するような態勢をとってはどうか。交番があることで地域全体に安心感が芽生え、事件が起こった際にも相談に行く場所が明確になる。また、交番の勤務には警察OBの活用も考えられる。通常勤務の警官が地域内のパトロールに出る時間帯は、警察官OBが交番内に常駐して各種の相談事に応じるようにする。リタイヤした人々の社会参加の場ともなり、より地域の安全・安心に貢献することができる。

福岡一の繁華街である中洲に近い春吉地区は、大名・今泉とは少し違った状況がある。春吉はどちらかといえば夜の街で、それが他の2地区にはない大人の遊び場としての



これは朝不孝通りにある交番。あるだけでも安心できるという町の人声

魅力を形成しているが、一方で昼間にゆったり歩くような街にはなっていない。春吉では昼間に散歩できるようなブティックや喫茶店などをつくることで、より歩きやすいまちづくりができるのではないだろうか。

寺社仏閣を新しいオープンスペースに

今泉地区にはお寺や神社などが今でも多く存在している。これらは以前は公共の場として機能し、地域の集会所的な役割を果たしていたが、時代とともにその役割も変遷し、現在ではむしろ閉ざされた場所となっている。通り抜けできないため路地が袋小路になったり、視界が遮られたりするほか、中には放置されて荒れ果てた神社なども見受けられる。空間が閉ざされることは前項にもあげた防犯面にも影響があり、また地域コミュニティが断絶される結果ともなっている。

こうしたお寺や神社のあり方を見直し、新しいオープンスペースとして再生させることは、地域コミュニティの形成、防犯対策、「歩けるまちづくり」などのさまざまな面から有効な手段だと思われる。特に今泉地区は店舗がまばらで、街歩きを楽しむための動線が整備されているとはいえない。このような場合に、一般に開放され、通り抜けができるお寺や神社などがあると、より歩きやすいまちづくりが可能になり、地域内の巡回が促進されると思われる。



寺社がコミュニティスペースになる可能性はあるのか



地域の子どもたちに開放されると安心して遊べる場になる

2 新しいコミュニティの形成

さまざまな主体参加による組織づくり

これまでの地域コミュニティは地域の自治会や地元住民による組織が一般的であった。けれども、こうした一元的な組織で地域づくりを行っていくには限界がある。特に今回の調査区域となった大名・今泉・春吉は職住遊が混在す

る地域で、地域住民だけの活動ではすべての分野をカバーできない。一方で、商業地にみられるような商店主の集まり、いわゆる商店会のような組織であっても地域のニーズを補うのは難しいと思われる。

職住遊が混在する地域特性を考えた場合、自治会・住民、商店主といった枠組みを超えた多様な主体が連携した組織づくりが望ましい。メンバーには地域で活動するNPOなどの任意団体、観光やショッピングで訪れる若者たち、さらには行政などを含め、地域に関係する多くの人々が参加できる新しいコミュニティを形成する。

とりわけ地域活動が活発で、NPOのセンターが存在する大名は、こうした組織づくりには最適だろう。新しい地域活動のあり方として、観光やショッピングにきた若者たちも一緒に清掃やゴミ拾い、落書き消しなどの活動を行う。また地域通貨を発行し、清掃や落書き消しに参加した人々には対価の地域通貨を支払い、地域内の店舗で利用できるようにする。これらの動きは都心型の地域活動、地域通貨のあり方を探るモデルケースともなりうる。

コミュニケーションの場としての文化施設

ヒアリングの中で多くの人々が望んでいたもののひとつに文化施設がある。映画館、ギャラリー、本屋など、小さくとも文化的な香りが漂い、消費行動をしなくても時間がつぶせて滞留できる場所だ。地域住民あるいは来訪者に限らず誰もが気軽に利用でき、フラーと訪れて一定時間滞在できる。

こうした文化施設は、前出の「歩けるまちづくり」においても重要な要素だが、もうひとつ、地域のコミュニケーションの場としても大切な役割を持つ。文化施設を地域住民が運営していくことで、地域に関わる人々のコミュニケーションの場ともなりうるからだ。以前、市内の各所には地元の店主が経営する単館の映画館が存在していたが、それぞれの店主が上演作品を企画することで地域の色合いを演出し、街の魅力ともなっていた。こうした場は人々の集まる文



NPO・ボランティアセンター「あすみん」
のある大名の施設



多くの人が集まるけやき通りにあるこだわりの本屋さん

化サロンの役割も果たし、ここから地域活動に結びついていった例も多い。

大名・今泉・春吉の各地域は、もともとサブカルチャーの街であり、こじんまりとしていても特色ある店舗や空間が多い。街の良さを活かした文化施設はコミュニケーションの場であるとともに、その地域を将来にわたって支えていく人材の育成の場ともなりうる。こうした文化施設で実践に触れながら地域のマネジメントを学べる仕組みを考えてはどうだろうか。

仲介の場や情報発信の必要性

さまざまな主体が地域づくりに参加するためには、わかりやすい寄り合いの場が必要となる。前項の文化施設のようなものとは限らないが、老若男女を問わず人々が出会える何らかの仲介の場は必要であろう。初めて街を訪れた人も、ここへ行けば地域のさまざまな人々や出来事に触れられるような場所である。こうした場は街への帰属意識を養うためにも重要である。

また、仲介の場はリアルな空間とは限らず、インターネットのホームページのような新しいメディアを使った媒介方法も考えられる。メディアでの媒介方法は外部へ向けた情報発信の場ともなるので、よりわかりやすい発信方法と言える。

現在、春吉には「晴好実行委員会」という地域活動団体があり、住民や商店主などが参加して地域づくりのための会合、ホームページの開設、定例イベントなどを行っている。3つに地域の中では最もまとまりがよく、今後のモデルケースともなりうる存在だ。大名の一部にはこうした媒介組織などが存在するが、地区全体の動きになっていないのが課題である。また今泉については地域活動自体が乏しく、今後は目に見える形での地域活動をどうつくっていくかが課題と言える。



晴不孝通りにある映画館。強いファンをもつ



地域で作っている春吉地区のホームページ
<http://www.haruyoshi.jp/>

3 地域住民を大切にする視線

ファミリー世帯向けの優遇制度を

大名・今泉・春吉の各地区には小学校が存在する(今泉に関しては隣接する警固地区に所在)。小学校があることの意味は大きく、子どもたちが街の活気を感じさせることはもちろん、地域活動をまとめるにも小学校単位の活動が役立つ。このように小学校が街の核になることは、まちづくりにおいては非常に重要だ。ただし、人口減少や子どもを持つ世帯数の減少で、小学校児童が減り続けていることも事実である。

例えばワンルームマンションだけの地域は住民間の交流も乏しく、地域が荒廃するのも早い。子どもを持つ世帯が暮らせることは地域をつくる上で欠かせない要素である。都心でのファミリー世帯の居住を推進するために、ファミリー世帯向けマンションの不動産業者・入居者などへの優遇制度などを設けてはどうだろうか。近年では年配者の都心回帰も進んでおり、都市部の暮らしを便利で快適と考える高齢者が増えてきた。こうした高齢者世帯への何らかの優遇制度も考えられる。

相続問題への対策が急務

大名・今泉・春吉は古くからの住民が存在する地域で、2代、3代と住み続けている住民もまだ相当数が残っている。また地区内に居住してはいないが、先祖代々の土地を現在も所有している地権者は多い。こうした古くからの住民・地権者が街並や地域活動を守ってきた功績は大きく、それが古さと新しさが共存するそれぞれの地域の魅力ともなっている。

ただし近年の都市化の影響は大きく、商業地として注目が集まるにつれ、大手資本の介入で土地を手放す人や、地域外に住居を移す人も出てきた。その傾向は商業化が著



運動場も広い春吉小学校



児童数が少なくなっている大名小学校



歴史のある建物は町にとっても大きな財産

しい大名地区で最も顕著に現れている。さらに2005年3月20日に起きた福岡県西方沖地震の影響で、大名・今泉地区では古い建物などの多くが被害を受け、建て替えなどを余儀なくされている。こうした状況下では地域を離れ、土地を手放す人がさらに出現する可能性がある。

土地所有を継続する上で最も問題となるのが相続問題である。都心部に近いために各地区では地価が上がり、これが次の代への土地所有を難しくしている面がある。相続問題は個人の問題として捉えられがちだが、街並や地域活動を維持していく上でも大きな影響力を持ち、特に下町的な生活感が街の魅力となっている大名・今泉・春吉では住民が存在することの意味は大きい。こうした地区では相続税などに対しての何らかの優遇制度、あるいは土地所有を継続できる何らかの措置を設けることが望ましい。

また相続に限らず、建物の建て替えや改装などの場合も、古い建物を壊してしまうのではなく、うまく残してリノベーションするための仕組みも必要であろう。現在ある建物を上手に再生することは、地域への愛着、古さと新しさが共存する街の魅力、さらには安全・安心のまちづくりの面においても有効であると考えられる。

4 まちづくりの主体と行政の役割

まちづくりの主体はあくまで地域の人たち

まちづくり活動の主体はあくまで地域住民や商店主など、地域に根差した人々であるべきである。地域に根差した人間以外の視点からでは、例えばゴミの問題など、地域の日常生活に密着した課題にまで目が行き届きにくい。また、それを実行するにあたって、住民・商店主など地域に愛着を持った人々であれば継続性や熱意が期待できる。

ただし、外部からの視点やサポートが必要ないということではなく、地域を活性化させるためには外からの働きか



70年続いた店も生まれ変わる



平日の昼間でもにぎわいを見せる大名西側

けが必要な場合もある。まちづくりには「よそ者」と「ばか者」が不可欠であるという声を聞く。「よそ者」は地域の魅力を再発見し、そこに欠けているものを教えてくれるカンフル剤のような役割。そして実際に行動を起こすのは、地域の中で情熱を傾けてまちづくりを行う「ばか者」や、それに続く地域の人々だ。2つの役割がうまく働いてこそ、より良い地域づくりが可能になると思われる。

行政は市民にできないことをやる

まちづくりの主体が地域の人々であるとしたら、行政はどのような役割を果たせばいいのであろうか。今回のヒアリングでは「行政は何もしなくていい」という声が非常に多かった。ただし、これは文字通り何もしなくていいということではなく、行政が率先して考えるより、自分たちの活動を支援してくれ、という意味である。

例えば、これまで出てきた交番設置などの防犯対策、不動産の優遇制度、相続税の問題などは一般市民では対応できない制度面の問題があり、こうした分野では行政の手助けが必要となる。けれども必要以上の手助けをするのではなく、ある程度は地域の自発的な活動に任せた方が将来的にもうまくいくと思われる。

また資金面の補助に関しても行政自体が選定をするのではなく、何をどのように使うかを地域に任せる方法が望ましい。大名・今泉・春吉は都心部から近いにも関わらず、比較的安価で小規模な出店も可能なことから若い人々の創業地としても機能している。都心の周縁部におけるベンチャー支援は地域活性化のために重要であり、地域に根差した人々を育成する上でも意味がある。地域のイベントに補助金を出すより、こうしたベンチャー支援のために家賃の補助を行う方がより街のにぎわいにつながるのではないだろうか。さらに前出の地域のインフォメーションセンターや媒介組織に補助金を一括委託し、そこで必要に応じて分配するような自主的運用方法も検討する必要がある。



大人の町のたたずまいを残す番町界隈



風情のある路地裏

研究担当者

主任研究員 佐々木喜美代

研究主査 水戸領吾

研究主査 中村正則

大名・今泉・春吉地区の経済環境調査 都心・天神に隣接したエリアのアメニティ

2005年3月

発行

財団法人福岡アジア都市研究所

〒810-0001

福岡市中央区天神1-10-1 福岡市役所北別館6階

Phone : 092-733-5686 Fax : 092-733-5680

E-mail : info@urc.or.jp URL : <http://www.urc.or.jp>